社団法人 和商同窓会会報

（旧和商）　（新和商）

（発行所）和歌山市砂山南３丁目3-94　県立和歌山商業高校内　TEL 436-6456　社団法人和商同窓会　（第36号）平成21年３月１日（日曜日）

「激変の時代に」

理事長
小川　武

和商同窓会の皆様方には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、平素より当会活動に格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、例年年の瀬には、(財)日本漢字能力検定協会が選定し、清水寺の森清範貫主が描く「今年の漢字一字」が発表されますが、二〇〇八年は「変」という字が選ばれました。

我が国の舵取り役である内閣総理大臣に麻生太郎氏が、またアメリカの次期大統領に黒人として初めてとなるバラク・オバマ氏がそれぞれ就任する政界の「変」化。アメリカ大手証券会社であるリーマン・ブラザース破綻に端を発した金融不安の中、我が国においても、急激な株安や円高という経済界の「変」動。地球温暖化問題が深刻化し、大地震やゲリラ豪雨などが起こった世界的規模での気候異「変」。正に「激変の年」ではなかったでしょうか。

このように激しく変化し、先行きが不透明な時代の中で、我が和商の生徒達の頑張りは、まるで爽やかな一陣の風のように、私達に明るいニュースを提供してくれます。

相撲部、卓球部、陸上競技部などの運動部のみならず、珠算部、簿記部といった文化部の全国大会をはじめとする各種大会での活躍、また、簿記開放講座や和商ふれあい祭など、地域住民の方々と触れ合うことのできる行事の実施など、挙げれば枚挙に遑がありません。

こうした活動により「和商の生徒達は礼儀正しく、よく挨拶をしてくれる」と地域において評判となっていることは、和商同窓会の理事長として、また一卒業生として大変喜ばしいことであり、これもひとえに田井校長先生をはじめ教師の方々やＰＴＡの方々の、人間形成に主眼をおいた、誠実なご指導の賜とこの場をお借りし敬意を表する次第です。

私達和商同窓会でも、これまで以上に一致協力の体制により、ＰＴＡの方々や先生方と連携しながら、健全な教育、正しい学校運営に尽力して参りたいと考えていますので、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びに、母校和商のさらなる充実、発展と関係各位のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。

「出会いに感謝」

生徒会長
役田若菜

私が生徒会長になってから、一年があっという間に過ぎてしまいました。人生で一度しかない高校生活で、生徒会長という立場で県和商と関わることができてとても嬉しく思います。そして、またいい経験ができたと思います。クラスだけでなく、生徒会を通しての出会いがあり、普段なら関わることのない先生方と深く関わることができ、学科を越えたたくさんの友達ができ、みんなで協力して仕事をするということの難しさを知りました。

任期が終わりに近づくにつれて、一年前のことを思い出します。私が、生徒会長になってから数多くの行事に携わってきました。そのたびに、仲間との友情が深まっていきました。数多くの行事のあるなか、夏の紀三井寺での野球応援はとても心に残っています。人数的にも限界があった中で、初めはまとまりがなく悩んだりもしましたが、県和商の最終戦となった戦いの時には一致団結でき、みんなで涙を流しました。その後の文化祭の準備では、意見が合わなかったり、忙しさのあまりにもめごとがあったり、意見がすれ違ったりもあり、お互いに悩んだり苦しんだりしながら当日を迎えましたが、終わった後にはみんなが同じ達成感をあじわうことができ、ひとつになることができました。その時には、いままでの出来事を思い出し、辛かったことも思い出となり、また反省も生まれ、こんな私についてきてくれたみんなに感謝の気持ちが生まれてきて、みんなに出会えてよかったと思いました。

生徒会の活動を通して、生徒会長というものを甘く見ていた私がいたので、多くの苦労をし、周りに迷惑をかけてしまいました。生徒会活動には様々な行事があり、人の前に立つこと、裏で働くことがあり、その中で楽しいことや辛いこともたくさんありました。

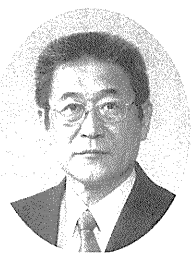
さまざま活動をしていく中で、色々なことがありましたが、こんな頼りない私を支えてくれた役員の仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。行き詰まってしまった時に力をかしてくれたり、時にはみんなで笑いあったりと生徒会は私にとって大きな存在でした。

私が力不足の時、協力してくださったたくさんの先生方や役員の皆さん、本当にありがとうございました。

これから私達の後を継いでいってくれる後輩達には、私達の先輩方からの県和商の伝統を受け継ぎ、さらに自分たちで歴史に残る県和商を築きあげていって下さい。また、同学年の人たちには、離れ離れになっても、県和商の卒業生であることを誇りにもって、全国各地で活躍してくれることを期待しています。

「凩は逆風に揚がる」

学校長　田井　伸幸



和商同窓生の皆様方には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本校教育の充実発展のため、物心両面のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨秋、アメリカを震源とした経済の大揺れが世界中を震え上がらせました。今年に入ってからも「百年に一度の危機」という言葉が飛び交い、大企業の「非正規従業員などのリストラ」記事が毎日のように報じられました。大学や専門学校で早くもその影響が出て、就職内定の取り消しという事態が起こっています。まだ高等学校ではほとんど影響は出ていませんが、この揺れはきっと長く尾を引き、いずれ高卒者の就職を脅かすだろうと受け止めています。そのようなかで、２学期終業式の講話では、日本経済の現状に触れずにいられませんでした。たまたま、耐震工事のため体育館での集会ができず、放送でたっぷりと話をすることになりました。

まず冒頭に、二十歳代後半の女性の悲痛な訴えが新聞記事になったことを紹介しました。それは「結婚できなくてもいい。子どもも諦めます。どうか私に仕事をください。」というショッキングなものです。この先１年の間に「失業者が３００万人に膨れあがる」と予想されていることも伝えました。また、この不況下で各企業は採用にあたって「知識や技術がはるかに上の失業者」と「若さと将来性のある新卒生」のどちらに求人するだろうかという問題を投げかけました。先行き不透明な未来に向かう我々は、一体何をすればよいのかとも問いました。この答えは、「今できることを今やる」しかないということだと思います。働く力、生きる力、世間に通用する力を養わなければ、この厳しい世に打って出ることはできないのです。そして、失業された方には誠に気の毒ですが、高校生には充分に鍛える時間が残されていることを伝えました。

幸い、いい事例がいくつも紹介できました。今年度、システムアドミニストレータの国家試験に見事合格した６名（県下13名中）のがんばりを引き合いに出しました。また本校にとって難関校である和歌山大学へ照準を定め、とうとう合格を手にした５名も紹介しました。世間にも「手本」を示した若者がたくさん現れました。プロゴルファー１年目にして「最年少優勝」を果たした石川遼選手や、史上初の「女性プロ野球選手」となった吉田えりさんは共に高校２年生です。県内でも全盲の青年が教員採用試験に見事合格したニュースがありました。彼らの成果はどうやって生まれたのかということを、一人ひとりに考えて欲しかったのです。ここで言えるのは、彼らが先ず、「ようし、挑戦してやろうじゃないか」と「やる気」を湧かせたことにほかならないということです。勿論、「諦めない」努力も大事ですが、その前に「やるぞ」という「出発点」に立つことが不可欠です。そして、本校にはチャレンジできる、「やる気」を奮い立たせるに十分な具体目標はいろいろとある、と。

追い風に凧は揚がりません。「とても無理かも知れない、それは不可能に近い」という目標だからこそ、闘志が湧き、努力のし甲斐が出てきます。やれば必ず成果はついてくる。逆境こそ真に自らを成長させてくれる舞台なのです。どうかその舞台に進んで立って欲しいと願っています。

本校の進路動向

進路指導部長
池浦正佳

《平成20年度就職状況》

現時点での本校への求人件数は県内89社（154名）、県外185社（248名）で、昨年と比較すると県内の求人件数は横ばいであるが、求人数は30名ほどの減少となった。その減少分の大半は事務系（57名→39名）であり、事務系希望者は昨年とほぼ変わっていないことを考えると、事務系希望者にとっては大変厳しい状況であった。とくに地元の中小企業や会計事務所の求人が手控えられたのは大きい痛手となった。今年度前半の原油高や金融危機など厳しい状況下で採用を手控えたことが考えられるが、２００９年度も厳しい状況が続くと見られている。

《平成20年度進学状況》

平成20年12月時点においての入試合格状況は、四年制大学89名、短期大学52名、専門学校89名となっている。専門学校や四年制大学については、合格者の人数は例年とあまり変わらないが、短期大学に関しては、一時期減少したが今年は昨年に比べて10名程度増加している。入試形態は指定校推薦、商業科推薦、一般推薦、ＡＯ入試が大半を占めている。

四年制大学の進路の内容は、商経系統の大学・学部が主ではあるが、福祉、医療、観光等にも合格者が増加している。

短期大学に関しては、相変わらず地元の和歌山信愛23名が突出しているが大阪方面の短期大学は昨年度あたりから減少している。幼児教育系や食物栄養系の学科については、職業に直結した学科であり安定した人気を維持しているが、生活科学系やビジネス系のような学科は四年制大学や専門学校と競合しており、今後も分散化する傾向が続くと思われる。また四年制大学にも子ども教育学科と言った名称の学科が設置され、幼児教育系も短大と四大の競合が始まっているといえる。

専門学校については、この春新たに開設される大原簿記和歌山校19名が突出している。今まで大阪まで通学しなければならなかった専門学校が和歌山にできたことで殺到したのであろうが、本来資格取得に強みを持ち、さらに大阪の本校と比べて授業料も安く設定されていることも魅力のひとつであろう。その他では和歌山看護３名、和歌山県歯科衛生士２名、野上厚生総合病院付属看護４名、ＩＢＷ美容専門学校４名など多種多様の分野に合格している。

学科名	卒業生 男	卒業生 女	卒業生 合計	就職者 男	就職者 女	就職者 合計	縁故 男	縁故 女	縁故 合計	公務員 男	公務員 女	公務員 合計	就職者合計 男	就職者合計 女	就職者合計 合計
情報処理科	20	56	76	0	20	20	0	0	0	0	1	1	0	21	21
会計科	57	141	198	13	27	40	0	1	1	1	0	1	14	28	42
国際経済科	21	57	78	1	16	17	1	1	2	0	0	0	2	17	19
合計	98	254	352	14	63	77	1	2	3	1	1	2	16	66	82

学科名	四年制大学 男	四年制大学 女	四年制大学 合計	短期大学 男	短期大学 女	短期大学 合計	専門学校 男	専門学校 女	専門学校 合計	進学者合計 男	進学者合計 女	進学者合計 合計
情報処理科	5	9	14	0	8	8	12	12	24	17	29	46
会計科	29	17	46	0	30	30	9	48	57	38	95	133
国際経済科	14	9	23	0	11	11	2	9	11	16	29	45
合計	48	35	83	0	49	49	23	69	92	71	153	224

新役員 (新58期生) きまる。

1組	福井　良紀	金谷　春奈	
2組	◎森　啓介	上釜　彩加	
3組	小泉　沙織	橘　美穂	
4組	山東　大輝	松下ひろみ	
5組	渡邊　麻衣	市場　絢	
6組	◎高山　友樹	赤松　千香	
7組	大浦　亜友	浦野　恵	
8組	森田　紗世	前山　紫乃	
9組	小泉　慶知	佐古佳奈美	

◎印は代表評議員

訃報

藤城　亘男　先生
佐野　潔　先生
坂本富士雄　先生
山路　周三（新５期）　前副理事長

ご冥福をお祈り致します。

事務局からのお願い

各期での同窓会、クラブＯＢ会等の催しを開催される時はご一報・ご投稿下さい。

チャンスをつかめたのも県和商のお陰

（株）JSK 取締役社長
藤岡弘章（新3期）

昭和29年春、県和商を卒業して以来、73歳になるまで仕事一筋の人生を歩んできた。

当初は無難に家業の襖材業を継いだものの、20数年も経つと世の中は生活の洋風化の時代へと変遷を遂げ、住宅様式も和室中心から洋室中心へと様変わり、襖の需要は徐々に下降線をたどり始めた。それだけではない。段々と高学歴化の流れが加速し、職人さんと呼ばれる業界に若い人が入ってこなくなって技術者は高齢化の一途を余儀なくされ、将来について不安を覚えるようになった。

そんなとき、偶然にも米国の雑誌で先進国において人材派遣業が伸びているのを知り、数年後には日本にも普及してくるだろうと思い、何か熱いものを感じて関心を持った。それからは家業を経営しつつ、起業を前提に人材派遣業の研究に没頭した。当時はまだ労働者派遣法も制定されておらず、マニュアルはない。職業安定法に抵触しないかなどの指導を受けるため東京・飯田橋職安に何度となく足を運んだ。お役所にしては結構親切に対応していただいたのには今も感謝している。そして、家業を経営しながら昭和55年に大阪・心斎橋で人材派遣会社を立ち上げた。しかし、そんなに甘いものではない。1期目は赤字、2期目は赤字がもっと膨らんだ。家族の反対を押し切っての開業だったこともあり弱音は吐けない。社員にも不安感を与えてはと思い会社では常に明るく振舞った。やっと3期目で経済の追い風にも恵まれ、期間損益がはじめてかなりの黒字となって内心ホッとした。経済の追い風はチャンスだ。4期目では過去の赤字を一掃し、新事業に自信を持ったため、もともとの家業はその営業権を関連業界の某社へ売却し、派遣業に専念することにした。その後はお陰さまで期により多少の凸凹はあったものの順調に成長した。

65歳ぐらいになった頃後継者の問題を意識し始めた。まだ体力にも自信があったため、そのうちに何とかしなければと思う程度であまり真剣には考えなかった。これが70歳にもなるとさすがに焦りはじめた。社員にも白羽の矢を立てたり、知人にも声をかけて次期社長候補を紹介してもらったりはしたが、条件が合わず事ごとく失敗。人望があり経営能力があって、しかも資金も出せる人となるとそう簡単ではない。個人相手では無理と判断し、安心のできる法人を対象に切り替え、やっと昨年1月に、あるジャスダック に上場している企業とで合意。社員も社名も勿論そのままだ。

業務の引継ぎが終われば、73歳でやっと安心して引退できると喜んだ。同時に何十年も病気欠勤ゼロを達成できたことが最もうれしかった。有難い。しかし、あとで「ぞっ」としたこともある。私が終わった直後、世界同時不況の余波から派遣切りのニュースが頻繁に報じられ、業界のイメージがかなり低下、もし数ヵ月決断が遅れていれば法人との合意もできていなかったかもしれない。

引き継ぎ期間があと2ヵ月と迫った頃、考えが変わった。これからは毎日が日曜日だ。最初の数ヵ月位はいいとしても退屈しないだろうか、頭がボケて来ないだろうか、体力が落ちてこないだろうか等、頭の中を駆け巡った。よ～し、もう一度新規事業を立ち上げようと決心。自分が後継者問題で苦労したのをヒントに、後継者難で悩む中堅・中小企業の事業譲渡などを扱うM&A会社を昨年8月大阪・南森町に設立、9月から営業を開始。今はまだ走り出したばかりだ。勿論今回は次期社長をあらかじめ決めてのスタートとなった。

過去を振り返ると、県和商で学んだ簿記や文書実務が実業界でどれだけ役立ったことか。反対に、もっと勉強しておけばよかったのにと後悔しているのが英語。とくに会話力はビジネスでは必須。また、何をするにも健康でなければ果たせない。私は50歳ぐらいからマラソンを始め、今もシーズン中は好きな旅行を兼ね、月2回のペースで海外も含め各地のマラソン大会に参加している。（写真は昨年7月の長野・小布施見にマラソンでハーフに出場したときのもの）フル出場はあと1年ぐらいかと思っているが、ハーフまでならまだ当分続けられそうだ。何よりも若い人と一緒に走れる楽しさがあり、ストレス解消にもなる。走っているときはしんどくても、ゴールしたときの達成感やそのあとのビールのうまさは格別だ。人間はいくつになってもある程度頭を使い、軽い運動でもして汗をかく、あるいは何かの趣味に没頭するのも老化防止に役立つのではないだろうか。趣味の場合、何かの発表会や作品の展示会など、目標を決めれば適度に予定に追われ、一層ヤリ甲斐を見出せるのではないかと思う。

さて、今年度の成績ですが、男子学校対抗は、総体五位、選手権三位、新人戦三位と苦戦しましたが、女子学校対抗では総体こそ三位だったものの、選手権大会では昭和五十年以来の優勝を飾り、快挙を成し遂げました。新人戦は惜しくも二位でしたが、来年度の総体が楽しみであります。

また、個人の部ですが、男子は大江が全国選抜出場、女子は宮本・小門組、林・西川組、林、宮本、小門、中村が近畿大会出場を果たし、名門県和商の伝統を引き継いでくれています。

本校卓球部は現在、県教育委員会よりハイスクール強化指定クラブに指定されており、またスポーツ推薦入試の指定クラブであります。和歌山県卓球界の底上げに寄与することはもちろん、文武両道の精神を重んじ、部員の健全な成長を願って私共も日々部員に接しております。今後とも本校卓球部を温かく見守っていただければと思います。

末筆ながら同窓生の皆様のご健康とご多幸、今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げ、筆を置かせていただきます。

顧問　石田秀行

「学習活動におけるスペシャリスト養成事業」が動き始めました

和商同窓生の皆様には、ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より本校の教育の発展のためにご尽力いただき厚く御礼申し上げます。

また、本年度より「学習活動におけるスペシャリスト養成事業」にご支援いただきお礼申し上げます。

本年度の「学習活動におけるスペシャリスト養成事業」の取り組みは下記の4講座で実施されました。

まず、土曜講座として「日本商工会議所簿記検定対策講座」を26回（130時間）開講しました。この講座の指導は、本校教員と専門学校教員（大原簿記専門学校）によるティームティーチングで行いました。

次に、情報処理上級資格取得を目的として、本校教員が中心となり「システムアドミニストレーター初級試験対策講座」を夏期休暇中に1泊2日の合宿形式で開催し、2学期から不定期でしたが、土曜日や平日の放課後に対策講座を開講し、5名の合格者を出しております。次回の対策講座より専門学校とのティームティーチングを考えています。

また最近は、高校生が公務員試験に合格することは極めて難しくなり、2年生より受験対策をする必要がでてきました。その対策のため進路指導部が中心となり、「公務員試験対策講座」を専門学校教員（和歌山コンピュータ専門学校）と本校教諭で毎週金曜日放課後に開講することになりました。この講座は、本年10月まで17回実施され、11月より来年度の受験対策講座が開講されています。

最後に、本校生徒が医療関係に興味を持ち、就職する生徒も多くいます。この現状を鑑み、生徒が医療関係で勤める意味や適性を、進路決定前に知ることが必要です。

そこで、和歌山コンピュータ学院の協力を得て、「医療秘書養成基礎講座」を開きました。この講座は昨年7月より6回（月1度）、和歌山コンピュータ専門学校で開催されました。

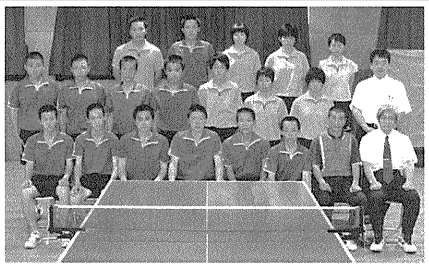
以上、（1）「日本商工会議所簿記検定対策講座」、（2）「システムアドミニストレーター初級試験対策講座」、（3）「公務員試験対策講座」、（4）「医療秘書養成基礎講座」の4講座が、県和商同窓会による「学習活動によるスペシャリスト養成事業」として今年度開講されました。

このように、生徒達の興味関心に応じた講座で、自分の能力を伸ばす体制が和商同窓会のご支援で動き出しました。

これらの講座を活用することにより、日本商工会議所主催の上級簿記検定合格者や情報処理資格である初級シスアド試験（ITパスポート試験）、各種公務員試験合格者が多く生まれることで、県和商の商業教育の意味が再評価され、生徒の夢や希望が実現できるように努力したいと考えています。

教頭　上野和久

こんにちは！卓球部です！



和商同窓生の皆様、こんにちは。卓球部より日頃の活動状況等を報告させていただきます。

本校卓球部はOBである山本光義監督が三十四年間一貫した指導方針の下、日々部員の指導に当たって下さっています。本校百周年事業の際、長年の功績が認められ、特別表彰されたことは記憶に新しいところです。

今年度の部員数は男子十二名、女子六名の計十八名で、練習時間は平日約二時間、休日約四時間です。本校卓球場にて基本練習、多球練習からゲーム形式まで密度の濃い練習を行っています。練習中はマシンの音、ボールの音、シューズの音のみ。そこに監督の大きな声が響き渡り、ピンと張り詰めた空気の中で部員達が研鑽に努めています。

顧問　石田秀行

旧37期生同窓会（昭和十八年卒）

平成20年11月25日　県和商凡々会　於 ホテルグランヴィア和歌山

平成20年11月25日、JR和歌山駅、ホテルグランビア和歌山で平成20年度同窓会（凡凡会）を正午より開催、出席者は19名でした。現在65名生存、住所がほぼ確定して居りますが主に闘病生活等色々と体調の気遣いをして居る様です何分にも全員82～83歳の高齢者です。しかし野村晴一君が是非共と田井校長より我等旧和商もう一度新規事業を立ち上げようと決心。自分が後継者問題で苦労したのをヒントに、後継者難で悩む中堅・中小企業の事業譲渡などを扱うM&A会社を昨年8月大阪・南森町に設立、9月から営業を開始。今はまだ走り出したばかりだ。勿論今回は次期社長をあらかじめ決めてのスタートとなった。

過去を振り返ると、県和商で学んだ簿記や文書実務が実業界でどれだけ役立ったことか。反対に、もっと勉強しておけばよかったのにと後悔しているのが英語。とくに会話力はビジネスでは必須。また、何をするにも健康でなければ果たせない。私は50歳ぐらいからマラソンを始め、今もシーズン中は好きな旅行を兼ね、月2回のペースで海外も含め各地のマラソン大会に参加している。（写真は昨年7月の長野・小布施見にマラソンでハーフに出場したときのもの）フル出場はあと1年ぐらいかと思っているが、ハーフまでならまだ当分続けられそうだ。何よりも若い人と一緒に走れる楽しさがあり、ストレス解消にもなる。走っているときはしんどくても、ゴールしたときの達成感やそのあとのビールのうまさは格別だ。人間はいくつになってもある程度頭を使い、軽い運動でもして汗をかく、あるいは何かの趣味に没頭するのも老化防止に役立つのではないだろうか。趣味の場合、何かの発表会や作品の展示会など、目標を決めれば適度に予定に追われ、一層ヤリ甲斐を見出せるのではないかと思う。

さて、今年度の成績ですが、男子学校対抗は、総体五位、選手権三位、新人戦三位と苦戦しましたが、女子学校対抗では総体こそ三位だったものの、選手権大会では昭和五十年以来の優勝を飾り、快挙を成し遂げました。新人戦は惜しくも二位でしたが、来年度の総体が楽しみであります。

また、個人の部ですが、男子は大江が全国選抜出場、女子は宮本・小門組、林・西川組、林、宮本、小門、中村が近畿大会出場を果たし、名門県和商の伝統を引き継いでくれています。

本校卓球部は現在、県教育委員会よりハイスクール強化指定クラブに指定されており、またスポーツ推薦入試の指定クラブであります。和歌山県卓球界の底上げに寄与することはもちろん、文武両道の精神を重んじ、部員の健全な成長を願って私共も日々部員に接しております。今後とも本校卓球部を温かく見守っていただければと思います。

末筆ながら同窓生の皆様のご健康とご多幸、今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げ、筆を置かせていただきます。

顧問　石田秀行

興味あることに徹底して取り組もう

コンピュータ部

和商同窓会の皆様方には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。県和商の良い点は運動部も文化部も部活動が活発な学校ということです。今回は文化部の一つであるコンピュータ部の活動について報告させて頂きます。商業高校の特色の一つとして、基礎学力を高めつつ、部活動等を通じてその生徒一人ひとりの興味あることを徹底的に取り組むことができることがあげられます。商業科目の資格を取得することで進学や就職を有利にするという、生徒の進路保証をすることができます。

今年度、和歌山県の情報処理競技大会では、団体優勝と、個人では部長の松下君が一位という成績を二年連続で達成するなど、生徒の情報処理に対する学習意識は高いものがあります。競技大会だけでなく、三年生は基本情報技術者試験に合格、二年生でも初級システムアドミニストレータ試験に合格しています。（和歌山県の高校生の合格者の半数を達成）

また、勉強ばかりでなく、校内において、八月の中学生の体験学習では、パソコンの実習の補助をするなど中学生に県和商の良さを伝えるお手伝いをしたり、文化祭においても、生徒が作成したゲームを楽しんでもらうなど興味のあるテーマを活動の中で自分で探し取り組んでいます。専門的になりますが、実際にパソコンを分解したり、組み立てたりする生徒やXPというオペレーティングシステムだけでなく、フリーソフトのLINUXに挑戦する生徒やパソコン複数台をネットワークで接続したりと学習したことを実際に試して技術力を高めています。

生徒によってはかなりの技術力が身についた生徒もいます。高校で興味・関心を高めて次のステージで活躍する力をつけています。今年は、和歌山大学へも合格しました。来年度もそれぞれの生徒が前向きにさまざまなことに取り組んでいけると確信しています。

顧問　義間信夫

松島　宏

紫紺の校旗をお借りし、会場に飾り旧校歌「千歳のみどり」を斉唱すれば昔の若者和商健児となり再生した卒業アルバムを見往時の級友達を偲び会場は大いに盛り上がり当時のクラブ活動、諸先生方のアダナなど出て急に血気盛んでした。又今年県スポーツ奨励賞を得た田嶋俊雄（マスターズ水泳世界記録保持者）より謝辞あり、特に田井校長並びに同窓会長小川武氏に感謝の意を伝えて下さいとのことでした。我々一同も次の彼の努力を期待した処でした。

宴もたけなわでしたが午後四時再会を願い散会致しました。

一同現在の若き和商生方々の今後増々の活躍を期待して居ります。